



TITLE:

膀胱異物症例及び統計的観察

AUTHOR(S):

山崎, 巖; 玉置, 明

CITATION:

山崎, 巖 ...[et al]. 膀胱異物症例及び統計的観察. 泌尿器科紀要 1958, 4(5): 264-269

ISSUE DATE:

1958-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111610>

RIGHT:

膀胱異物症例及び統計的觀察

京都大学医学部泌尿器科学教室（主任 稲田 務教授）

助 手 山 崎 巖

副 手 玉 置 明

Foreign Body in Urinary Bladder

Iwao YAMASAKI and Akira TAMAKI

*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University**(Director: Prof. T. Inada)*

Two cases of foreign body in the urinary bladder were observed on endoscopic examination.

Case No. 1, M. N, aged twenty-one; came in complaining of vesical irritation. Two months previously he had lost a portion of wax candle in the urethra (urethral masturbation). He thought it had slipped into his bladder, but said nothing about it. In a short time he began to have bladder irritation. By means of our cystoscopic rongeur the wax candle was easily grasped and removed.

Case No. 2, S. S, aged sixteen years. Patient admitted that three days before while employing a vinyl tube within the urethra it slipped away from him and disappeared into the bladder. Shortly after that he began to have miction pain. The cystoscopic rongeur was introduced without difficulty.

We have made the statistical observation from 1917 to 1955 on foreign body in the urinary bladder of 65 cases in our clinic, and of 456 cases in Japan.

1) Difference in Age: The most of patients are ranging in age from 21 to 30 which mark 13 cases (20 %).

2) Difference in Sex: The incidence of vesical foreign body is higher in male than in female, and this ratio is 2.1 : 1 in our clinic.

3) The list of objects removed from the human bladder is an incredibly varied one. Most of the objects are wax candle, gauze, silk sutures, needles and catheters.

4) By far the most common portal of entry is the urethra (66.2 % in our clinic, 61.6 % in Japan).

5) It is more desirable to treat a patient by not surgical procedure than by surgical operation (by not surgical 76 % in our clinic, 38.6 % in Japan).

緒 言

膀胱異物及び膀胱異物結石は臨床上稀なものではなく、文献を徴してみるに甚だ多く、それについての統計的觀察も詳細に述べられてある。著者等は最近西洋蠟燭及びビニール管の膀胱異物各 1 例を経験したので茲に報告し、併せ

て京大泌尿器科教室の大正 4 年より昭和 32 年末迄の 43 年間に於ける膀胱異物につき、本邦例との比較觀察を試みた。

症 例

第 1 例 中村. 21 才, ♂. 工員.

初診: 昭和 32 年 6 月 15 日.

家族歴及び既往歴：特記すべき事はない。

主訴：排尿痛，尿意頻数

現病歴：昭和32年4月下旬，自慰の目的で尿道内に西洋蠟燭を挿入せる所，誤つて膀胱内に迄入つたもので5月上旬より排尿終末痛，尿意頻数あり，発熱，側腹痛，尿線中絶等はない

現症：体格中等度，栄養良好，心肺に異常なし。膀胱部に軽度の圧痛ある外，肝，脾，両腎等腹部に異常なく陰茎，睪丸，前立腺にも何等異常を認めない。尿は濁濁し，白血球多数，相当数の赤血球，雑菌を認める。

膀胱鏡所見：膀胱容量は150 cc以上，膀胱粘膜は一般に濁濁し充血をみるが潰瘍は認めない。膀胱後壁に約2.0 cmの芯と思われる糸のはみ出た灰白色の西洋蠟燭及び膀胱頂部空泡下に破片と思われる蠟燭片2個（長さ各々0.5 cm, 0.3 cm）を認めた。インデゴカルミン試験は両側共正常である。

療法：ヤング氏異物鉗子膀胱鏡的に摘出した（第1図）

第2例 杉森。16才，♂，学生。

初診：昭和32年7月23日。

家族歴及び既往歴：特記すべき事はない。

主訴：排尿痛

現病歴：昭和32年7月20日夜，自慰の目的で尿道内に直径0.3 cm，長さ50 cmのビニール管を挿入し，そのまま睡眠せる所，翌朝膀胱内に迄全部入つてしまつているのに気付いた。同時に排尿痛を覚える様になつた。

現症：体格中等度，栄養佳良，心肺に異常なく腹部にデファンスを認めない。両腎は触れず圧痛はない尿管，膀胱部に著変なく，その他泌尿生殖器に外診上著変を認めない。尿は軽度濁濁し少数の白血球，赤血球及び雑菌を認める。

膀胱鏡所見：膀胱容量150 cc以上，膀胱粘膜は一般に充血し腫脹している。後壁に緑色の幾重にも巻いたビニール管を認めた。インデゴカルミン試験は両側共正常である。膀胱部レ線単純撮影にて幾重にも屈曲した紐状の陰影を認める（第2図）

療法：碎石器にて容易に摘出し得た（第3図）

総 括 考 按

膀胱異物の症例は，洋の東西を問わず，多数記載され統計的觀察も亦多くの先人により屢々試みられて来ている。本邦に於ては大正6年小沢氏が始めて18例を蒐集報告して以来，都築氏50例（大正15年），大川氏

119例（昭和4年），齊藤氏87例（昭和5年），馬場氏125例（昭和8年），土田氏156例（昭和8年），山本・大森両氏207例（但し尿道異物を含む）（昭和9年），橋本氏174例（昭和10年），高木氏225例（昭和11年），杉山氏257例（昭和11年），杉山氏300例（昭和15年），向井氏79例（但し女性のみ）（昭和14年），土屋・峰両氏272例（昭和25年），後藤・新谷両氏312例（昭和28年），有田氏356例（昭和30年），黄氏361例（昭和32年），阿世知氏411例（昭和32年）の多数の報告を見ている。以上はすべて蒐集例である。

著者等は後藤・新谷両氏より発表された大正4年より昭和26年末迄の37年間に於ける教室例43例に，更に昭和27年より昭和32年末迄の6年間に於ける教室例22例を加えた65例に就て觀察した。昭和30年有田氏は本邦蒐集例356例を報告したが，著者らはその後昭和32年4月迄の報告例78例を集め之に同期間内の教室例22例を加え，合計456例を得たが，これは昭和32年4月までの本邦全症例と考えられる。これと教室例との比較觀察を行つた。

統 計 的 観 察

1) 年令的觀察

第1表に示す如くに大正4年より昭和32年末迄43年間に於ける教室例65例について觀察してみるに，10才以下，80才を以上にはなく，21才～30才に最も多く13

第1表 年令及び性的關係（教室例）

年 令	♂	♀	計
0～10	0	0	0
11～20	10	2	12 (18.4%)
21～30	12	1	13 (20.0%)
31～40	6	6	12 (18.4%)
41～50	4	7	11 (16.8%)
51～60	4	5	9 (13.8%)
61～70	5	0	5 (7.6%)
71～80	2	0	2 (3.6%)
80以上	0	0	0
不明	1	0	1 (1.5%)
計	44 (67.7%)	21 (32.3%)	65

例（20.0%）を占めている。次いで11才～20才及び31才～40才の夫々12例（18.4%）である。本邦例でも21才～30才が最も多く杉山氏蒐集の本邦例257例（昭和11年）中，年令不明なるもの26例を除き231例の年令別に分類したその頻度をみるに9才以下6例（2.6%）10才～19才30例（13.0%），20才～29才93例（40.3%）

30才～39才41例 (17.8%), 40才～49才22例 (9.5%)
50才～59才22例 (9.5%), 60才～69才13例 (5.6%),
70才～79才4例 (1.7%), 80才以上0である。即ち
杉山氏報告にて20才台に最も多く全症例の40.3%を占
めている。更に他の報告例をみるに矢張り21才～30才
が最も多く都築氏約39%, 山本・大森氏38.8%, 齊
藤氏37%, 土田氏30%, 大川氏約27%, 高木氏約37%
、後藤・新谷氏25.6%, 黄氏55%で何れも此の年代
に最高率を示している。これは自慰によるものが多い
関係で思春期以後30才までに多く見られるものであら
う。

2) 性的関係

第1表に示す如くに、教室例では男44例 (67.7%)
女21例 (32.3%)にして、その比率は2.1:1となり男性
は女性より遙かに多い。本邦例では杉山氏は257例中
不明のもの14例を除き243例に於て男173例 (71.2%)
女70例 (28.8%)にしてその比率は2.5:1となつて
いる。齊藤氏は男73%, 女27%, 馬場氏は男72.5%,
女27.5%, 土田氏は男73.05%, 女26.95%, 都築氏は
男70%, 女30%, 後藤・新谷氏は男79.1%, 女20.
9%, 有田氏は男70.6%, 女29.4%, 黄氏は男60%,
女40%, 阿世知氏は男70.6%, 女29.4%であり、我々
の調査結果を併せた不明のもの30例を除いた426例に
ついてみると、男294例 (69.1%), 女132例 (30.9%)
となつており、男女の比は2.2:1である。又大川氏
の本邦例と西洋との比較をみるに本邦人では男性71.4
%, 女性28.6%であり、西洋人では男性53.2%, 女性
46.8%で西洋に於ては女性の数値が本邦女性に比して
高い事を指摘している。

3) 異物の種類

膀胱内異物の種類は非常に多い。教室例にては第2
表に示す如く、18種にしてそのうち同一種類の異物が
2例以上見られたもの9種あり、ただ1例のみ見られ
たものも同じく9種である。その種類は縫合糸、カッ
トグット、ガーゼ片等既往手術による膀胱異物が17例
(26.0%)で第1位を占めており、次で蠟燭及び蠟様
物質10例 (15.4%), ネラトン氏カテーテル8例 (12
.3%), ゴム管7例 (10.8%), 誘導糸状ブジー5例 (7.
6%)が多い。著者の本邦例の異物は第3表に示す如く
不明例を除いて15種に分類され、蠟燭及び蠟様物質76
例 (16.7%), ガーゼ片及び縫合糸71例 (15.6%),
縫針、留針等金属製品66例 (14.5%), カテーテル等
尿道器具53例 (11.6%)が多い。ガーゼ及び縫合糸等
は教室例で第1位、本邦例で第2位を占めており、山

第2表 異物の種類 (教室例)

番号	異物の種類	例数	備考
1	縫合糸、カッ トグット、ガー ゼ片	17(26.0%)	縫合糸14, 縫合糸と 綿花1, カットグット 1, ガーゼ片1,
2	蠟燭及び蠟様物 質	10(15.4%)	西洋蠟燭8, 蠟片1, 棒状パラフィン 1.
3	ネラトン氏カテ ーテル	8(12.3%)	自転車ムシゴム3, 腸 内に達せしゴム棒1, 他のゴム管1,
4	ゴム管	7(10.8%)	
5	誘導糸状ブジー	5(7.6%)	
6	膀胱皮様嚢腫	3(4.6%)	
7	薬片	2(3.6%)	麦藁(尿道と合併)1 他の薬 1
8	針	2(3.6%)	縫針 1 留針 (尿道) 1
9	蛔虫	2(3.6%)	
10	笹の若葉	1(1.5%)	
11	銅線	1(〃)	
12	赤鉛筆	1(〃)	
13	細棒状大理石様 光沢を有するも の	1(〃)	
14	楊子	1(〃)	
15	尿管カテーテル	1(〃)	
16	体温計	1(〃)	
17	ハツトピン	1(〃)	
18	ビニール管	1(〃)	

第3表 異物の種類 (本邦例)

番号	異物の種類	例数	%
1	蠟燭及び蠟様物質	76	16.7
2	ガーゼ片及び縫合糸	71	15.6
3	縫針、留針等金属製品	66	14.5
4	カテーテル等尿道器具	53	11.6
5	植物の根、茎、葉等	31	6.8
6	ゴム管及びゴム棒	31	6.8
7	皮様嚢腫	27	5.9
8	硝子製棒状寒暖計	20	4.4
9	木片、竹片等	18	3.9
10	紙、ビニール等	16	3.6
11	骨片	9	1.9
12	サナギの幼虫	5	1.1
13	蛔虫	5	1.1
14	もうせんガ幼虫	1	0.2
15	クレオン	1	0.2
16	不明例	26	5.7
計		456	100%

本・大森氏14例 (6.8%), 後藤・新谷氏25例 (8
.0%), 有田氏40例 (11.2%), 黄氏47例 (13.01%)
阿世知氏56例 (13.6%)であり、土屋氏の指摘せる如

く既往手術による膀胱異物は漸次増加する傾向があり、近來増加した外科の手術に起因するものが多くなって来たわけである。又蠟燭及び蠟様物質は教室例で第2位を占めて10例(15.4%)、本邦例では第1位を占め76例(16.7%)であり、依然高率を示し自慰行為による蠟燭が減少していないことが判る。尚有田氏は蠟燭及び蠟様物質68例(19.1%)、縫針、留針等金属製品45例(12.4%)、黄氏は前者66例(18.2%)、後者47例(13.01%)、阿世知氏は前者75例(18.2%)、後者56例(13.6%)で共に上位を占めている。又ネラトン、糸状ブジ等尿道器具が教室例1例(21.5%)、本邦例53例(11.6%)で可成りの高率なる事は注目に値する。又興味あるのは阿世知氏も指摘しているが教室例では1例であるが本邦例で16例(3.6%)を示すビニール膀胱異物で、有田氏の報告迄は4例(1.1%)しかみられなかつたのに黄氏7例(1.94%)、阿世知氏17例(4.2%)で年々の増加率が他のものに比して高いことである。著者等の追加例中性的目的によると思われる膀胱異物は52例であるがこのうちビニール製品は12例あり、蠟燭又は蠟様物質は8例でビニール製品の方が4例多い。性的目的による蠟燭の使用がビニールにとって変られつつある事を示して面白い。

4) 膀胱内への侵入経路及び由来

第4表及び第5表に示す如くに分類すれば、尿道を経て膀胱内へ入るものも多く、教室例で43例(66.2%)、本邦例で281例(61.6%)を占め、尿道以外より入つ

第4表 膀胱内への侵入経路由来(教室例)

分 類	例 数
1.尿道を経て膀胱内に入るもの	43(66.2%)
イ) 明に手淫の目的によるもの	8(12.3%)
ロ) 恐らく手淫の目的によるもの	13(20.0%)
ハ) 医療によるもの	4(6.1%)
ニ) 泥酔中他人に入れられたもの	2(3.6%)
ホ) 酒宴の興に自己にて入れたもの	1(1.5%)
ヘ) 会陰部外傷術後	1(1.5%)
ト) 不明	5(7.6%)
2.尿道以外から膀胱内に入るもの	21(32.3%)
イ) 既往手術によるもの	17(26.0%)
ロ) 皮様囊腫	3(4.6%)
ハ) 膀胱壁より	1(1.5%)
3.経路不明なるも腸内に達せるもの	1(1.5%)

第5表 膀胱内への侵入経路由来(本邦例)

分 類	例 数
1.尿道を経て膀胱内に入るもの	281(61.6%)
イ) 性的目的によるもの	179(39.3%)
ロ) 医療によるもの	27(5.9%)
ハ) 尿道治療によるもの	21(4.6%)
ニ) 墮胎目的によるもの	36(7.9%)
ホ) 尿道以外から膀胱内に入ったもの	18(3.9%)
イ) 既往手術によるもの	135(29.6%)
ロ) 皮様囊腫	78(17.1%)
ハ) 外傷によるもの	27(5.9%)
ニ) 膀胱壁より	13(2.8%)
ホ) 燕下物迷入	7(1.5%)
ヘ) 腔内挿入物の貫入	6(1.4%)
3.原因不明	4(0.9%)
	40(8.8%)

たものは、教室例21例(32.3%)、本邦例135例(29.6%)にすぎない。尿道を経て膀胱内に入ったもののうちでは、性的目的によるものが大半を占め教室例24例(36.9%)、本邦例179例(39.3%)である。尿道以外より入つたもののうちでは既往手術によるものが最も多く、教室例17例(26.0%)、本邦例78例(17.1%)である。

5) 異物の除去方法

膀胱内異物の除去方法は異物の種類、形状、大きさのみならず尿道及び膀胱の症状殊に尿道狭窄の有無等によつて異なることは言うまでもないが、何れにしても先づ一時も早く、之が除去に努めるべきである。除去方法の第一条件としては可急的に自然排出を可能ならしむ事であり、第二条件としては非観血的に除去する事であつて、若しこれらが不可能である時、初めて観血的除去方法を講ずるべきである。教室例では第6表に示す如く大部分非観血的に除去し得て65例中50例(76.9%)、観血的方法によるものは僅に9例(13.8%)に過ぎない。本邦例では第7表に示す如く非観血的方法によるもの456例中176例(38.6%)、観血的方法によるもの178例(39.0%)で観血的方法によるものが僅に多い様である。山本・大森両氏(昭和9年)によると観血的方法によるもの80例(53.3%)、非観血的方法によるもの62例(41.6%)であり、土屋・峰両氏(昭和25年)によれば前者112例(41.3%)、後者89例(32.7%)、後藤・新谷両氏(昭和28年)の前者

第6表 異物除去方法(教室例)

分 類	例 数
1. 観血的方法	9 (13.8%)
イ) 高位切開法	8 (12.3%)
ロ) 開腹術	1 (1.5%)
2. 非観血的方法	50 (76.9%)
イ) ヤング氏手術用膀胱鏡にて摘出	19 (29.2%)
ロ) 碎石器にて摘出	14 (21.5%)
ハ) 碎石術施行せるもの	6 (9.2%)
ニ) ワラップ氏膀胱鏡に膀胱異物鉗子使用	3 (4.6%)
ホ) 尿道異物鉗子及びコッヘル使用(尿道異物にて)	3 (4.6%)
ヘ) 溶剤使用せるもの(蠟, パラフィンにて)	4 (6.1%)
ト) 膀胱鏡的に(明らかならず)	1 (1.5%)
3. 特別な処置を講ぜざるもの	5 (7.6%)
イ) 自然排出	5 (7.6%)
ロ) 除去せず放置	0
4. 不明例	1 (1.5%)

第7表 異物除去方法(本邦例)

分 類	例 数
1. 観血的方法	178 (39.0%)
イ) 高位切開法	136 (29.8%)
ロ) 会陰切開法	27 (5.9%)
ハ) 腔式膀胱切開法	2 (0.4%)
ニ) 術式不明	13 (2.8%)
2. 非観血的方法	176 (38.6%)
イ) 異物鉗子にて	122 (26.7%)
ロ) 碎石術によるもの	34 (7.5%)
ハ) 溶剤使用によるもの	19 (4.2%)
ニ) 用手的に	1 (0.2%)
3. 特別な処置を講ぜざるもの	31 (6.8%)
イ) 自然排出	22 (4.9%)
ロ) 除去せず放置	9 (1.9%)
4. 不明例	71 (15.6%)

119例(38.1%) 後者113例(36.8%), 有田氏(昭和30年)の前者133例(38.3%), 後者136例(38.5%) 黄氏(昭和32年)の前者147例(40.72%), 後者129例(35.73%)である。

結 語

1) 最近我が教室に於て膀胱異物の症例2例を経験した。第1例は21才の男子で西洋蠟燭。第2例は16才の男子でビニール管の膀胱異物で共に異物鉗子にて摘出した。

2) 本邦に於て報告された膀胱異物の症例は、著者等の調査例を併せて昭和32年4月迄に456例を知り得た。此の本邦例456例につき、大正4年より昭和32年末迄の43年間に於ける教室例65例との比較統計的観察を行つた。

3) 年齢は21才~30才が最も多く、教室例20.0%を占めて居る。

4) 男性と女性との比は教室例2.1:1, 本邦例2.2:1であり、男性が多い。

5) 異物の種類は教室例、本邦例共に、蠟燭及び蠟様物質、縫合糸、カットグツド、ガーゼ片等既往手術によるものが上位を占めている。

6) 膀胱への異物の侵入経路は尿道より入つたものが多く、教室例66.2%, 本邦例61.6%であり、その由来は性的目的によるものが教室例36.9%本邦例39.3%にて最も多い。

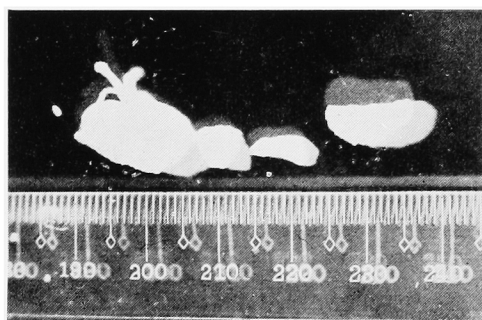
7) 異物の除去方法としては非観血的方法が望ましく教室例にては76.9%に行なわれているに反し、本邦例にては38.6%に行なわれているにすぎない。

摘筆に臨み御指導、御校閲を賜つた恩師稲田教授に深く謝意を表します。

文 献

- 1) 小沢：順天堂医事研究会雑誌，540：1917.
- 2) 都築：日泌尿会誌，15：1，1926.
- 3) 大川：皮紀要，14：343，1929.
- 4) 齊藤：病理と治表，3：345，1930.
- 5) 馬場：台湾医学会雑誌，32：568，1933.
- 6) 土田：日泌尿会誌，22：301，1933.
- 7) 山本・大森：日泌尿会誌，23：224，1934.
- 8) 橋本：日本外科学会雑誌，36：1214，1935.
- 9) 高木：日本医科大学雑誌，7：371，1936.
- 10) 杉山：北海道皮膚科泌尿器科雑誌，11：2，1936.
- 11) 杉山：大阪医事新誌，11：872，1940.
- 12) 向井：産科と婦人科，7：157，1939.

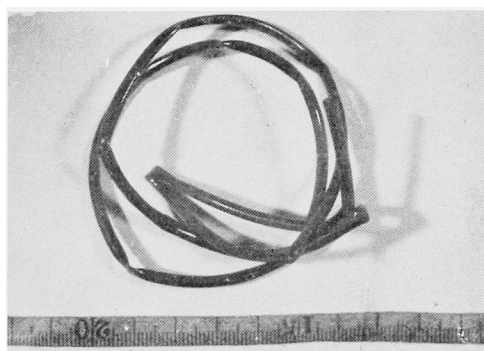
- 13) 土屋・峰：手術，4：215，1949.
- 14) 後藤・新谷：皮紀要，49：163，1953.
- 15) 有田：臨牀皮泌，9：1083，1955.
- 16) 齋：臨牀皮泌11：177，1957.
- 17) 阿世知：臨牀皮泌，11：777，1957.
- 18) 山崎・大隅：千葉医学誌，31：262，1955.
- 19) 山田：日本医師会誌，34：328，1953.
- 20) 中村：皮と泌，17：804，1955.
- 21) 赤松：医療，9：652，1955.
- 22) 福地：順天堂医誌，2：107，1956.
- 23) 奥井・折橋：日泌尿会誌，47：700，1956.
- 24) 武田・栃木：日泌尿会誌，47：409，1956.
- 25) 亀田：日泌尿会誌，47：409，1956.
- 26) 三橋・奈良林：日泌尿会誌，46：494，1955.
- 27) 福田：日泌尿会誌，46：218，1955.
- 28) 石山・馬場：日泌尿会誌，46：223，1955.
- 29) 稲葉・上杉：秋田医師会誌，7：74，1956.
- 30) 田代・松田：皮と泌，17：290，1955.
- 31) 石原：日泌尿会誌，48：304，1957.
- 32) 野沢：皮と泌，18：523，1956.
- 33) 西沢：泌尿紀要，2：164，1956.
- 34) 栃木：日泌尿会誌，47：406，1956.
- 35) 西村：信州医学誌，4：369，1956.
- 36) 大矢・山田：泌尿紀要，2：374，1956.
- 37) 安部：日赤医学，9：236，1956.
- 38) 弘中・安部：日赤医学，9：243，1956.
- 39) 神長：臨牀皮泌，10：287，1956.
- 40) 亀田：千葉医学誌，31：263，1955.
- 41) 皆見・皆見：皮と泌，18：156，1956.
- 42) 野見山：皮と泌，17：290，1955.
- 43) 森脇：臨牀皮泌，9：53，1955.
- 44) 高井・馬場：日泌尿会誌，46：499，1955.
- 45) 中溝：皮と泌，17：290，1955.
- 46) 志田・栃木：臨牀皮泌，9：358，1955.
- 47) 小川・森・大柳：臨牀皮泌，9：625，1955.
- 48) 佐々木：日泌尿会誌，46：119，1955.
- 49) 堀：日泌尿会誌，46：225，1955.
- 50) 赤坂・小瀬川：日泌尿会誌，47：138，1956.
- 51) 若杉・磯野：臨牀皮泌，11：45，1957.
- 52) 奥井：日泌尿会誌，47：700，1956.
- 53) 矢口：日泌尿会誌，47：697，1956.
- 54) 小瀬川：日泌尿会誌，47：697，1956.
- 55) 稲田・多田・宮崎・八田・村上：泌尿紀要，3：293，1957.
- 56) 山際：日泌尿会誌，47：696，1956.
- 57) 原子・西村・細井：臨牀皮泌，11：483，1957.
- 58) 志田・栃木・林：臨牀皮泌，11：173，1957.
- 59) 赤松：日泌尿会誌，47：70，1956.
- 60) 橋本：日泌尿会誌，46：485，1955.
- 61) 田中・久住：臨牀皮泌，10：2，1956.
- 62) 中村・松下：日泌尿会誌，47：264，1956.
- 63) 中村・上兼：日泌尿会誌，47：263，1956.
- 64) 西村：日泌尿会誌，47：263，1956.
- 65) 大森・三矢・寛・吉川：日泌尿会誌，46：487，1955.
- 66) 香川：日泌尿会誌，46：735，1955.
- 67) 片野：日大医学誌，15：653，1956.
- 68) 荒木・江良：臨牀皮泌，11：2，1957.
- 69) 津田・篠：臨牀皮泌，11：402，1957.



第1図 症例1. 摘出せる西洋蠟燭



第2図 症例2. 膀胱部レ線単純撮影 膀胱底部に巻いたビニール管



第3図 症例2. 摘出せるビニール管